プロジェクト名：再生ハンガー循環モデルで実現するゼロエミッション サステナブルなサプライチェーンを確立し、ブランド価値向上

企業・団体名：グンゼ株式会社

再生ハンガー循環モデル

企業概要・プロジェクト概要

グンゼ、西宮物流センターで「産業廃棄物ゼロ」を実現 ” 循環型モデルでブランド価値を創出”
2024年11月、兵庫県西宮市の「グンゼ西宮物流センター」が産業廃棄物ゼロを達成しました。これまで廃棄されていたプラスチックを、バリューチェーン全体の協力を得て回収・再生。自社を代表する紳士インナーウエア「アセドロン」などに使用するハンガーとしてよみがえらせるスキームを構築しました。
この取り組みは、単なる廃棄物削減にとどまらず、ブランド価値向上につながっています。この再生ハンガーを使用した「アセドロン」は2024年の販売開始から順調に成長し、2025年6月末時点で累計出荷枚数200万枚を突破。持続可能な取り組みとブランドの成長を両立する好循環を生み出しています。

産業廃棄物ゼロを達成した西宮物流チーム

取組効果（経済面・環境面）

- 西宮物流センターにて、産業廃棄物ゼロ達成（2023年度比▲７ｔ）。
- 産業廃棄物処理費用230万円削減。
- 企業ブランドの価値向上。
- プロジェクト参画企業数4社。

再生したインナーウエア用ハンガー

何をRethinkしたか
～モノの使い方や捉え方を見直したポイントやアイデア～

- 産業廃棄物として処理していたプラスチック端材を「有価物」として再活用。
- 他社への販売ではなく、グループ内で循環利用する仕組みを構築。
- 廃棄物再利用部材に専用シンボルマークを刻印し、商標登録を実施。
- 廃棄物を「未来の資源」として循環させ、ブランド価値向上に貢献。

グンゼの廃棄物を再利用した部材のシンボルマーク

どのようにDesignしたか
～ポイントやアイデアをどうカタチにしたか～

- 廃プラスチックをリサイクルするには、素材ごとの分別が不可欠。そのため従来の分別を5種類に細分化する必要がありましたが、材質ごとの形状を視覚的に示すことで、スタッフの負担を最小限に抑えました。
- グンゼグループ内で資源を循環させる仕組みをつくるため、バリューチェーン全体にスキームを理解いただき、関係者すべてが利益を得られる“WIN-WIN”のモデルを構築しました。
- まず兵庫県の西宮物流センターでモデルを確立し、その後、岡山県や栃木県にある他の物流拠点にも水平展開しました。

プロジェクト関係者・役割

企業名：グンゼ㈱
役割：企画、材料提供
ハンガー使用

企業名：岡山県貨物運送㈱
役割：プラスチック回収

企業名：マツダ㈱
役割：プラスチック再原料化

企業名：㈱CHU-PA
役割：ハンガー製造

プロジェクトに込めた想い

他の製品にも、資源循環の輪をどんどん広げていきたいです。

所属：グンゼ株式会社
技術開発部 環境戦略推進室
氏名：井上達陽

プロジェクトサイトURL：
https://www.gunze.co.jp/sustainability/news/2025/pdf/20250826001.pdf

プロジェクトリーダー：グンゼ㈱井上